

第5回 新しい学校づくり吉野川市・阿波市地域協議会 議事録

○ 協議「教育環境の整備のあり方について」

委員

新しい学校では普通教室数が20必要であるということであれば、鴨島商業高校に本校を設置して、阿波農業高校の実習地を利用するのが一番良いのではないかと思います。時期については、再編統合に向け3年間の学校間連携を実施するとのことですが、できるだけ早く結論を出して欲しいと思います。また、県下でも6校か7校しか甲子園に出場していないと思いますが、鴨島商業高校の野球部は甲子園に出場しております。また、阿波農業高校にはラグビー部があり、早く統合すれば素晴らしい部活動の展開ができるのではないかと思います。

県にぜひ要望して欲しいのですが、鴨島商業高校の場合、アクセス道路が非常に狭く、修学旅行の際などバスが入ってくるのに難儀しています。バイパスから広い道をつけてもらえたら地域の発展にもつながると思います。

委員

2校で新しい学校をつくるということで、主たる学校が1校ということになろうかと思えます。どちらを主にしようと、耐震等に関してはわかりませんが、もう1校の建物もしばらく使わせていただくということではいかがでしょうか。それと、5～6教室の教室棟なら、すぐに建つ状況にあるのかどうかお伺いできたらと思います。新しいアクセス道路については大賛成です。

県教育委員会

新しい教室棟を建てられるのかということにつきましては、高校再編方針でもお示ししてございますが、既存施設や実習地について可能な限り有効活用を図っていくということですので、使えるものはできる限り耐震補強等をして使っていく方向でございます。全く新しいものを建てるということにつきましては、9月県議会においても色々と議論されてはいますが、県は財政的に非常に厳しい状況でございます。県では昨年度、県立高校の耐震化の計画を作成し、昨年度から10年間で全ての県立学校について耐震を行うとしており、今のところ平成27年度までに耐震化を実施する予定になっています。

当分の間、両校を使ってはどうか、ということですが、再編を行うにしても、直ちに来年度とか再来年度からというのは非常に難しく、来年度に入学してくる生徒は、この地域協議会で両校の再編統合が協議されていることについて、既に承知していると思いますが、「どちらがどのようなかたちでどうなる」ということにつきましては、案内もできてない段階で入学試験を受け、高校を決めていくということになりますので、20年度に入学した生徒は20年、21年、22年と3年間学習し、自分の選択した高校で卒業していくということになるだろうと思っております。

委員

現在、小学校で勤務していますが、今の小学生が高校へ行く頃、こうした課程の新しい学校へ進むのではないかと思います。今、小学校・中学校でも特別支援教育を必要とする多様な子どもたちがおりますが、そうした子どもたちに対して個別に教育をしていくというのが今の教育のねらいです。当然、そうした子どもたちも含め、子どもたちが高校へ入学して、いろんな夢や希望が持てるような高校にして欲しいと思います。

先日、テレビで京都の堀川高校の特集を見ましたが、私立高校に負けないように公立の普通科高校でも改革を進め、子どもたちのやる気を育てることにより、特別な受験勉強をしなくても京都大学など国立大学へ進学するということでした。今は、子どもたちのほとんどが高校へ進学するという中で、全ての子どもたちにやる気とか誇りとかを持たせるということは大変難しいことだと思えます。しかし、子どもたちが夢を持てる教育をしていくためには、不要となるところは捨て、将来の教育のために必要となるところにはお金をかけていかなければ、「ただ単に2校をひとつにただけでないか」、「名前が変わっただけでないか」と言われかねないのではないかと思います。

県教育委員会

堀川高校は普通科で、今、再編統合を進めている両校は専門学科の高校であります。教育の目指す方向は同じでございます。入学してきた生徒にとって、将来の夢と希望が持てる学校にしていかなければならないと思っております。単に2校の再編統合というのではなくて、これまでの協議にもありましたように、新しい教育のコンセプトである「食の安全・安心の観点からの教育」食ビジネス科の導入、あるいは2校統合による部活動等の選択幅の広がりなどにより、生徒の活動も活性化されるという、大きな新しいメリットが出てくるのではないかと思っております。

施設整備につきましては、先ほども申し上げましたように、こういった時代ですので既存施設の有効活用を当然図っていかなくてはならないと思っておりますが、新しい教育にどうしても必要だというものにつきましては、精査して整備していく必要があると考えております。そういった点につきましてもご意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員

私自身に言い聞かせているのは、新しい学校を創るということをしっかりと頭に置き、統合とか吸収とかいうのではなく、資料のイメージ図にあるような商業科・農業科併設のメリットを活かした教育を柱とした新しい学校をつくるんだということです。現在は、商業科、農業科の教育を上手く活かし、非常に良い方向に進んでいます。

今日の議題は、「教育環境の整備について」でございますが、先程、説明がありましたように、鴨島商業高校の方が教室数も多く、何かと広いので、先程のような意見の方向で結構かと思えます。ただ、部活動も含め、両校にあるものをそのまま行うとか、共通のものを行うとかいうのではなく、新しい部を創るとか、常に「新しい学校づくり」を念頭に置きながら、両校の特色を活かし、今後、子どもたちに必要なものを検討し、教育施設もなくしたり増やしたりと精査していくのが良いのではないのでしょうか。

そこで質問ですが、商業科・農業科で5つの科、1学年で6クラスということですが、子どもたちが少なくなっている状況で、今後10年先、あるいはもっと先に、このクラス数が維持できるのでしょうか。維持できる見通しがありましたら、さらに夢が広がると思えます。

県教育委員会

再編された新しい高校がそのままの規模をずっと存続していけるかというご質問でございますが、一番最初に高校教育改革再編検討委員会の『最終報告書』をお配りしましたが、その125ページに中学3年生の生徒数の推移をあげています。平成19年度に高校に入学する生徒、今の高校1年生に相当する生徒ですが、県の計が7,868人、来年度高校に入学する中学3年生の数が7,677人ということで、1年間で約200名減少しております。その次の年は7,475人とまた約200名減少します。単年度で見ますと増えたり減ったりはありますが、右肩下がりですと減少する傾向は動かしがたい事実でございます。平成30年度の数値を見てみますと6,752人ということで、今よりも約1,000名減少しています。それ以降も減少傾向が続きますので、その学校が何年ぐらいその現状を維持できるかということにつきましては、現段階では申し上げることはできないわけでございます。しかし、新高校をつくる以上は魅力あるものにし、できるだけ多くの地域の子どもたちが進学してくれるような素晴らしい高校にしていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

委員

新しい学校で学ぶ子どもたちが、たくさんの先生から援助を得ながら学んでいくことが基本ですから、ただ今の委員の意見は本当に大事なことで私も思います。以前に、商業科・農業科併設のメリットを活かした教育について、こんな学習もできる、こんな学習もしてはどうか、というようなバラエティあふれる説明をいただきましたが、5つの学科構成で漏れていることはないのでしょうか。また、その中になかったもので、今回考えられている内容はあるのでしょうか。

それと、しばらくは、どちらかがどちらかへ通いながらという学習形態になろうかと思いますが、再編統合で新しい学校をつくるにあたり、両校間程度の距離にある学校を統合する例が、他にあるのでしょうか。また、両校を合わせると生徒数が500名程度になりますが、運動場の広さは大丈夫なのでしょうか。

事務局

学科構成と教育内容につきましては、実務者会議でも随分と議論し、両校の伝統の教育を融合・発展させていくには、この5つの学科構成が最善ではないかということになりました。5つの各学科での教育と、各学科がまとまったの教育で、新しい学校の教育の基本方針の達成が可能ではないかと思っております。

実習地への距離につきましては、伊万里商業高校と伊万里農林高校の再編計画（佐賀県）では、新高校の校地となる伊万里商業高校から、実習地として活用する伊万里農林高校までの距離が約5kmとなっております。

県教育委員会

鴨島商業高校の運動場は他校と比べ広く、運動場も含め、鴨島商業高校が有している校地面積は県内で広い方となっております。また、鴨島商業高校の体育館は、以前、生徒数が、かなりたくさんいた時代の体育館で広い面積を有しております。

委員

現在、中学校に勤務している立場でお話しさせていただきます。私が現在勤務している学校の状況を見ましても、中学生が高校への進路を決定するにあたっては、大学への進学を目指して高校を選択したり、あるいは高校で資格を得て社会に巣立っていくことを目指して進学先を決定する子どもたちもいますが、中には高校で部活動をしっかりとしたいという子どもたちも多くいます。先ほど、鴨島商業高校、阿波農業高校の部活動の状況をご説明いただきましたが、私が勤務している学校には、現在、運動部が12部、文化部が4部あり、その全てが両校の部活動の中にあることから、高校で部活動を中心に頑張りたいという子どもたちにとっては、新しい学校はニーズを満たしていると感じました。

吉野川市で中学校の体育連盟の係をさせていただいていますが、両校の部活動の中にないものとして、駅伝、新体操等があると思われませんが、吉野川市の他の中学校の場合にも、ほとんどの部活動がこの中に入っております。また、ラグビーやボクシングのように非常に魅力のある運動競技も入っており、部活動で頑張りたいと高校を選択していた子どもたちが、地元の学校を選んで、その中で頑張っていけるのではという思いがしております。

昨年度、私が勤務している学校の生徒数は114名でしたが、公立高校15校、私立高校5校と、20校に分かれたという状況でした。こうしたことから、遠くへ行かなくても、子どもたちが地元の学校で頑張ることのできる素晴らしい学校が、また1つ生まれるという期待で資料を見させていただきました。

委員

教育環境の整備のあり方という点につきましては、有効活用という面、あるいはこれから整備していくという面からも、まだまだ課題が残っているように思われますが、子どもたちが自分たちの夢や希望を叶えていけるような学校の施設・設備であって欲しいと私も思います。

先程、再編統合時期についての意見がありました。このことについてはいかがでしょうか。

県教育委員会

具体的に何年度という話になりますと、今後、施設整備がそれまでに間に合うのかなど、具体的な検討が必要となりますので、できましたら早くして欲しいとか、あるいは、地域に統合が浸透するための期間を待つてゆっくりで良いのではないかなどといったご意見を頂戴できたらと思います。

委員

今の県の財政状況等を考えれば、できるだけ早く再編統合するのが一番良いと思います。また、今までの協議の中にありましたように、他県の成功事例もありますから、ある程度のかたちができたら、できるだけ早く再編統合を進めていただいた方が良いと思います。それに加えて、地域発展の要望として先ほど申しましたように、県の方には鴨島商業高校へのアクセス道路につきましてもできるだけ早くお願いできたらと思います。

県教育委員会

道路につきましては、新しい学校の生徒の通学の安全を確保するというのであれば、道路管理当局に要望していけるのではないかと思います。

委員

再編時期につきましては、準備には色々あると思いますが、決して22年まで待たなくても、準備ができればできるだけ早くという思いがします。

それから先走ったことを言うようですが、新しい校名は公募されるのかどうか、非常に大事なことです。その話まで、まだいっていないだろうとは思いますがいかがでしょうか。

県教育委員会

まず、再編整備の時期につきましては、先ほど申し上げましたように、中学生に事前に周知しておく期間が必要であるとか、あるいは耐震をするにいたしましても、統合する前の生徒が少ない時にしておく方が生徒に影響が少ないのかなど、色々な計画を立ててみなければならないと思います。それから県の予算の関係もありますので、時期ははっきりしません。できるだけ早くということでご理解いただけたらと思います。

校名につきましては、今までに県内で統合しているのが、海部郡で統合した海部高校と、徳島工業高校、徳島東工業高校、水産高校を統合した総合技術高校（当時仮称、その後県立徳島科学技術高校に校名決定）がございまして、2校につきましては校名は公募しております。

鴨島商業高校と阿波農業高校の再編統合は、一方が一方を吸収するというのではなく、お互いが対等に統合し、全く新しい学校をつくるというコンセプトで参りたいと思っておりますので、公募して考えていただくのが一番良いのではないかと考えております。そういうことにも時間を要しますので、ハード面だけでなくソフト面でも準備に一定の時間がかかると思っています。

委員

私も委員の一人として、他の委員の方々の意見と同様でございまして。現状では農業高校・商業高校への希望者が少なくなっています。普通科志向の傾向にあるのは否めない事実だと思っております。日本の農業の現状を踏まえ、食の安全の確保の視点からも農業教育の果たす役割の大切さを感じている一人でございまして、残念ながら現状では進学希望者が非常に少なく、再編統合が3年4年先となりますと、新しい学校への入学希望者が少なくなり、魅力ある学校でなくなるというような懸念もあると思います。鴨島商業高校と阿波農業高校の合併の話については、地域の住民から私の方にも聞こえておりますので、そういうことも踏まえ、できるだけ早い機会にお願いしたいと思っております。

それと、ご承知のとおり、阿波市にはケーブルテレビがございまして、吉野川市にもあると思っておりますが、せっかく素晴らしい委員の方々にご出席していただき、時間を割いて新しい学校づくりについてご審議いただいておりますので、ケーブルテレビも有効に活用して、良い学校をつくっているということを、これから市民なり県民の方々に伝えていかなければならないという気がいたしております。

委員

「教育環境の整備のあり方について」貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で本日の協議を終了します。